



◆絶対量と精読

共通テストは文章量も多く、図表も多用され、センター試験時代よりもボリュームが大きくなっています。教科の内容云々以前に、そもそも膨大な情報量にのぞんで、それを捌いていく力を、問題を解く前提として求めています。一方で、国公立二次試験では、示された問題文をしっかりと読み込み、答えを組み立てて表現していく力が依然として求められています。二次試験が精読を前提としているのに対し、共通テストは速読を前提としています。

速読とは、単純に文章を早く読むことではなく、必要な情報を早く的確に拾い上げることができることを意味します。その文章の勘所^{かんじょう}を速やかに見出せるか、ということです。そして、速読は精読なくしては成立しません。つまり、きっちり読み込める・読み取れる力なくして、速やかに勘所をおさえることは出来ないということです。

速やかに勘所をおさえるにあたって欠かせないのが、「類推」する力です。「類」を「推」するためには、その文章を読むに先んじて、自分の中に「類」が蓄えられていなければなりません。精読の力を根底に置きつつも、「類」を蓄えるには、結局とどころ、文章を読む絶対量が求められているということになります。

学校の授業では、精読に関しては十分に扱うことが出来ています。国語や英語の授業を思い浮かべると分かると思います（他の教科でもそうですが）。一方で、授業だけで手当てするのが難しいのが、速読の部分です。授業として使える時間枠は決まっているので、量を確保することは容易には出来ません。読む絶対量については、授業以外の自分の時間の中で確保していく必要があります。

今野真二さん（日本語学者・清泉女子大学教授）は、著書で次のように述べています。

言語を運用していくにあたって、「類推」が重要だからだ。あらゆる語、あらゆる表現を最初から身につけて言語生活をスタートするわけではないから、言語を使いながら、自身の言語を広げ、しっかりとしたものにしていく。その時に、知っている「情報」を使って知らない「情報」について「類推」する。子供の「類推」ははずれてしまうこともあり、ほほえましい話として紹介されることもあるが、そうした「はずれ」も経験しながら、だんだん「類推」の力も強化されていく。類推というトレーニングの「場」はいくつもある。

…（略）…「書きことば」であれば、新聞や雑誌を読む、本を読むというようなことがそうした「場」の中心にあるだろう。…（略）…本はあまり読まない、ということになると、「書きことば」のトレーニングの場は、新聞や雑誌が主なものとなる。新聞や雑誌もそれほど読まない、ということになると、「書きことば」をトレーニングする「場」がそもそもあまりない、ことになる。

…（略）…また、「書く」だけで一切読まない人はいないだろうし、「読む」だけで一切書かない人もいないはずだ。「書く」「読む」「話す」「聞く」を言語の「四技能」ととらえると、一つ一つが独立しているように思いそうだが、「書く」と「読む」、「話す」と「聞く」とは当然表裏一体の関係にある。「双方向的」ということがいろいろな場面で言われるようになってきているが、言語活動はまさしく「双方向的」である。

したがって、「書く」ためのトレーニングは、

まずは書いてみることであろうが、しっかりした「書きことば」を「読む」ことは重要だ。「しっかりした書きことば」が存在していても、それを読まなければ「しっかりした書きことば」を実感することができない。

〔今野真二『うつりゆく日本語をよむ——
ことばが壊れる前に』岩波書店、2021年〕

*「書きことば」は、「話しことば」に対する筆者の語で、文章に書かれた言葉を指す。筆者は、この他にパソコンやスマホなどで入力する「打ちことば」があるとしている。

引用部分では、「書く」「読む」は表裏一体であり、その運用のためには、しっかりとした「書きことば」を見本として、日常的に触れておくことが必要と述べています。

要は、読む量については、自分で確保しましょうという話です。共通テストに移行して、全体的にはセンター試験時代よりも点数が下がる傾向にあります。一部の学校では点数が上がっています。そうした学校の生徒いわく、「文章量も多く、図表も多用されているから、これだけヒントが多いと逆に解きやすい」とのこと。こう言えるのは、読むこと自体が苦ではなく、多くの「類」を自分の中に蓄えているからこそなのでしょう。

さて、2/27(月)の試験終了時から実質的に始まっているのですが、3/22(水)HR解散時からは名実ともに春休みです。この間、1冊くらいは本を読みましたか？そしてこの1年間、生野高校の図書館へ自発的に足を運んだことが一度もない…などということはありませんよね？3/22から4月最初の登校日まで約20日間あります。HRが終わったら図書館へ寄って、ひとまず1～2冊を手に取りましょう。2020年に聴いた内田樹さんの講演で、次のような話がありました。「図書館は、本を借りたい人が行くため(だけ)にあるんじゃない。図書館の蔵書を全部読んでいる人なんていない。図書館の蔵書は、(まだこ

んなにも自分が読んでいない本があるという)自分の無知・自分の知らないことを可視化する装置なのだ」と。

前号の学年通信で、「自分の“知っていないこと”が、知っていることの輪郭の外側に広がっていることを認識する瞬間が、いわゆる“一つ賢くなった!”ということ」「知っていること・分かることが1つ増えるためには、その前段階として、自分が知っている・分かっていることの輪郭を描けること、その輪郭の外側に、まだ知っていない・まだ分かっている部分が広がっていること——を自分が認識する必要がある」と書きました。

読解力を鍛えることは、大学入試のみならず、その後の人生においても重要なことです。ただ、“〇〇に役立つから…”ということではなく、文章を読むことを通じて「新たに知ることそのものが喜び」と感じてほしいと考えています。2年生に進級したみなさんが、春休みにどのような「新たな知」を獲得したのか、4/10を楽しみにしています。

◆2023年度初めの予定

4/3(月) 新クラス・出席番号発表(下足前掲示)

*4/10(月)まで掲示してあります。

*自分の組番は自分で確認。写真を撮ってSNS等にアップしないこと。

10(月) 始業式(新クラスで2年の教室に集合)
クラス写真撮影

入学式準備(体育館設営)

11(火) スタディサポート

*この日から昼食を準備してください

*進路ファイル持参。詳しくは進路

NEWSを見てください

12(水) 1限対面式+授業4コマ

13(木) 授業4コマ+LHR

14(金) 授業4コマ+LHR(学年集会)

20(木) 定期健康診断